

# 合同ゼミの反省と感想

加納章裕・前島宏美・森田沙織

## 1. 合同ゼミの準備に関する反省と感想

私達は三浦半島について調査しましたが、合同ゼミ発表の準備するにあたり半年以上の準備期間があったのにも関わらず、時間を有効に使えなかったことが一番反省するべきところだったと思います。そして班のメンバーでもっとはっきり仕事分担をして調査出来れば、もう少し効率よく三浦半島について調べられたと思います。私は班のリーダーでしたが、班のみんなに的確な指示を出し、まとめることが十分にできなかったことが私自身の個人としての反省点ありますし、残念です。また三浦半島への現地調査には一度は行きましたが、あと何回か行って調査をすればよかったです。念入りに細かいところまでこだわった準備が出来なかったことも反省するべき点だと思いました。

## 2. 当日の報告内容とそれに対する質疑の概要

私達は三浦半島の旅行プランを企画してそれを発表していきました。その旅行プランには三浦半島のオススメの観光地を取り入れ紹介し、また三浦市の抱える問題点、それに対する解決策をあげていきました。質疑に関しては、三崎のマグロ料理に関する質問や、三浦市の交通渋滞の問題に関する質問がありました。三浦市の交通渋滞の質問では、明確な回答ができませんでした。ここで調査不足を少し露呈してしまったと思います。

## 3. 合同ゼミに対する感想と反省

発表当日はとにかく反省することばかりです。まず前もって班のメンバー全員で集まってプレゼンのリハーサルをしないで本番に臨んだので、発表時間のペース配分やわからなく焦ってしまったり、原稿を丸読みになってしまったりとかなり完成度の低いプレゼンになってしまったと思います。前日の準備一つでプレゼンの完成度は高めることができたと思いますし、前日リハーサルをやるよう指示を出さなかったリーダーの私の責任が大きいです。他の班のメンバーは当日頑張っていたので、本当に他のみんなには申し訳ないと思っています。また審査員の方から、「なぜあなたたちは三浦半島についてプレゼンしたのか、その動機や目的や熱意があまり伝わらなかった。」などのご指摘を受け、根本的な面から不十分なプレゼンになったと思い、残念というより恥ずかしいです。勝負で言うなら「惨敗」という表現が合うだろうし、負けるべくして負けてしまったと思っています。私は悔しいし、班の他のメンバーも同じ気持ちだと思

います。準備期間の時からプレゼン発表に対する意気込みや、気持ちが私達のチームには欠けていたのだと気付きました。気持ち一つで仕事ぶりは変わるし、当たり前のことですが、真剣にやらなければ、社会やビジネスの世界では通用しないし、評価されないということを痛感したことが、今回の合同ゼミでの収穫になりました。この反省を必ず今後の人生に生かし、この悔しい気持ちを忘れずに、何事も真剣に取り組める人間を目指します。